

文書分類番号	00	09	03	002	永 年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議 長 副議長 局 長 次長 係 長 担 当 担 当												文書取扱主任			

第 3 回 経 済 建 設 常 任 委 員 会 会 議 録

開催年月日	平成 27 年 6 月 10 日（水曜日）	開会 9 時 58 分	閉会 10 時 24 分	
開催場所	第一委員会室			
出席委員	小野、井上、三上、山本、荒木、東元	事務局	菊井事務局長	
			和田副主幹	
欠席委員			平川係長	
説明員	別紙のとおり	議 件	別紙のとおり	
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について			
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。			
	（1）5 月 30 日に発生したグライダー事故について			
	2 その他について			
	なし。			
	3 次回委員会の日程について			
	正副委員長に一任することに決定した。			
	上 記 記 載 の と お り 相 違 い な い。 経 済 建 設 常 任 委 員 長 小 野 保 之 ㊞			

平成27年6月4日

滝川市議会議長 水 口 典 一 様

滝川市長 前 田 康 吉

経済建設常任委員会への説明員の出席について

平成27年6月3日付け滝議第42号で通知のありました経済建設常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

副市長

経済部商業観光課長

経済部商業観光課主幹

鈴木 光 一

竹 谷 和 徳

日 口 裕 二

(総務部総務課総務係)

第3回 経 済 建 設 常 任 委 員 会

日 時 平成27年6月10日(水)
午前10時00分～
場 所 第一委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶(委員動静)

1 所管からの報告事項について

《経済部》

(1) 5月30日に発生したグライダー事故について

(資料) 商業観光課

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第3回 経済建設常任委員会

H27.6.10 (水)10:00～

第一委員会室

開 会 9:58

委員長 ただいまから、第3回経済建設常任委員会を開会いたします。

委員長挨拶（委員動静）

委員長 委員動静ですが、委員は全員出席。傍聴として木下議員、関藤議員が出席しております。

1 所管からの報告事項について

委員長 それでは、1、所管からの報告事項について、(1)、5月30日に発生したグライダー事故について説明を求めます。

(1) 5月30日に発生したグライダー事故について

竹谷課長 このたびのグライダー事故につきまして、お亡くなりになりました松田様、並びにご遺族の皆様に哀悼の意を表しまして、ご冥福をお祈りいたします。また議員の皆さんを初め、市民の皆さんに大変ご迷惑とご心配をおかけしましたことをおわび申し上げます。

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終了しました。

質疑ございますか。

荒 木 事故後の対応に追われて大変だろうと思いますが、国土交通省運輸安全委員会の事故調査の最終報告というものはあるものなのか。それと恐らく、確固たる原因というものは、例えばフライトの記録などでわかるものなのか伺います。

樋口主幹 最終報告はあるのかという点につきましては、新聞報道によりますとおおむね1年をめどに出したいと事故調査官が6月1日の記者会見で発言されております。通常1年から1年半が一般的な最終報告の出る時期となっております。それから、飛行記録の件につきましては、当該グライダーに飛行時の速度であるとか、位置などを記録するGPSの飛行記録が搭載されておりましたので、そのデータを回収しているところまでは、警察の鑑識と協力して行いましたので、確認が出来ております。現在、そのGPSの飛行記録が入手できると、事故対策等に大いに生かせるものですから、その早期開示を要請したいと考えているところです。

委員長 ほかに質疑ございますか。

三 上 機体などに不具合があった場合の保障について、滝川スカイスports振興協会が保障するのか。

樋口主幹 当該グライダーは、滝川スカイスports振興協会の会員4人で構成するグループが所有しているグライダーでした。今回の滝川グライダーミーティングというイベントに合わせて、グライダーを借りる側と貸し出す側との間に、貸し出しに関する覚書を交わしておりました。グライダーには、まず3種類の保険がかかっておりまして、機体保険として600万円がかかっており、万が一、破損してそれ以上の金額がかかった場合には、その保険金額以上は求めないという覚書の内容になっておりましたので、その600万円は当然、所有者に支払われることになります。それから、第三者賠償保険、自動車ではいいですと対人対物保険になりますが、これに関しては、神内ファーム側と最終的な詰めが出来ておりませんが、草地を傷めたということになりますので、こちらの保険で対応できる

と思います。それから搭乗者保険が1,000万円かかっていましたので、お亡くなりになられた松田さんの奥様から保険会社に対し、手続きを進めることになります。今のところ、ご遺族の方とお話している内容については、今回のことで、滝川市を初め、関係者の皆さん、市民の皆さんに心配をかけ、非常にご迷惑をおかけしたと。一刻も早い、スカイパークでの飛行再開を願っていますというお言葉をいただいております。

三 上
樋口主幹

搭乗前の身体の検診などは、現状どのようにされているのか伺います。
飛行前には、朝、天候について説明する、気象ブリーフィング、朝8時半に集合して天気がどうだと。それに見合った機材を準備しましょうと。機体の準備を終えた後、運航前のブリーフィングということで、運航上の注意点について確認してから、飛行するという流れに通常なります。その間に、各パイロットの顔色、気分がすぐれない等の確認は常々行っております。松田さんにつきましては、アルコールを飲まれない方で、それから体調管理に非常に気を使われている方です。夜更かしせず朝早起きで、施設内にある宿舎で共同で宿泊されていて、皆さんの朝食をつくったりしていた方で、健康上の観点からは、我々が見ている限り、全く問題はありませんでした。

三 上
樋口主幹

再発防止の観点に伺いますが、滝川スカイスポーツ振興協会としては、搭乗前には、身体チェックはしないのか。医師が来ればベストだと思いますが、そのようなチェック体制は、現状されていないのか。

現状では、何か記録に残るようなものとか、特定の項目についてチェックをすることはありません。今後の対応の中に、そのようなことを盛り込む必要性がでてくるのではないかと考えているところです。現在、それらのことも含めまして、考えられる安全点検は全て行おうというスタンスで、ではどのような項目があるのか、それに対してどのような対策を打てるのかということ滝川スカイスポーツ振興協会として考えております。

委 員 長
山 本

ほかに質疑ございますか。

当日は、あまりいい天気ではなかったように思いますが、何機くらいのグライダーが飛んでいたのか。また、そのグライダーの中で、危険を感じて戻ってきたグライダーがあったのか、その辺のことを伺います。

樋口主幹

当日、飛んでいたグライダーは8機です。各パイロットとともに、ピンネシリ付近に発生する特殊な上昇気流を目指して、離陸しております。その上昇気流は、高い高度では比較的スムーズな上昇ができますが、山の高さよりも低いようなところでは、気流が乱れたり、あるいは強い下降気流があったりということが、気象条件的には想定されるものでした。それは、グライダーパイロットであれば、基本的にそのウェイブという上昇気流ですが、その上昇気流であれば、そういうコンディションが想定されるということは、周知の内容です。それから、飛行していた8機の中で、数機は上昇気流をつかみ、十分高いところまで、2,500とか3,000メートル近くまで上がっております。その中の数機については戻って来たり、あるいは1機については、新十津川町のそっち岳スキー場にアウトランディング、場外着陸をしております。ですから、気流の状態として、全員がスムーズに上空の上昇気流に上がれる状態ではなかったと。その上がり損ねたうちの1機が松田さんのグライダーであったという状況でした。その日の上昇気流を捉えることに失敗する確率は、普段の日に比べてどうだったのか伺います。

山 本

樋口主幹 飛行していた機体のうちの半数が、上昇気流をつかまえて上昇し、半数が最終的に戻って来たということから考えると、フィフティー、フィフティーのような感じ。全員が全員上昇できるコンディションではなかったですし、よくあることですが、全員がおりて来るようなことでもなかったと判断しております。

山 本 ということは、普通の状態、これなら大丈夫だと判断した日であったということか。

樋口主幹 基本的には、特別ひどい状態で、全員が上昇気流をつかまえられずに、先ほど、山本委員から言われました皆が危険を感じたというような状態ではなかったと各パイロットから聞いております。

委 員 長 ほかにも質疑ございますか。

三 上 先ほど、質疑するのを忘れておりましたが、荒木委員からの質疑にありました国土交通省運輸安全委員会の事故調査の結果が出るのが、1年から1年半という話でした。それで、スカイサマーフェスタは毎年開催され、結構な入り込み客がいると思いますが、事故調査の結果が出た後に開催するとなると、ことしは仕方がないとしても、来年の開催にも影響してくるのではないかと。また、この催しの代替を考えなければならぬのかなと思いますが、その辺はどのように考えているか伺います。

樋口主幹 現時点で、イベントを開催するには、飛行を再開させないとどうしようもないと考えております。ですから、まずは飛行を再開させることに全力を注ぎたい。いくつかのポイント、GPSの飛行記録が開示されるのかといったことがあります。基本的には協会側としては、安全総点検をとおして今回の事故のことも含みつつ、問題な点があったのか否か、そういったことを洗いざらい出して、外部の有識者の意見なども交えながら、飛行再開への道を進んでいきたい。そういった意味で、体験搭乗の申し込みやイベントの開催の問い合わせが多数あり、非常に反響の大きさを感じているところです。ですから、できるだけスムーズに早い段階で再開できるよう、いろいろな形で策を進めていきたい。再開がかなった時点で、事故調査の最終報告が出ない段階で、イベントとの影響の有無を検討したいと考えております。

竹谷課長 現時点では、サマースカイフェスタに代わるイベントは考えておりませんが、ことし、そのほか実施するイベントを含めて、後半のどこかの時点で、できるものがあれば、再検討したいと思います。

委 員 長 ほかにも質疑ございますか。

(なしの声あり)

委 員 長 それでは、報告済みとします。

2 その他について

委 員 長 2、その他についてですが、委員から何かありますか。

(なしの声あり)

委 員 長 事務局から何かありますか。

(なしの声あり)

3 次回委員会の日程について

委 員 長 それでは、3、次回委員会の日程につきまして正副委員長に一任願えますか。

(異議なしの声あり)

委 員 長 以上をもちまして第3回経済建設常任委員会を閉会いたします。

閉 会 10:24